1．令和4年7月～9月期の景気動向

今期のDI平均値は△30．8ポイント。建設業は17ポイント、卸売業は12ポイント、小売業は6ポイント、サービス業は8ポイント上がったが、製造業は7ポイント下がった。前期の4～6月の△38．0ポイントから7．2ポイントプラスとなった。

業種 ＼ 項目	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高	△ 50 (△ 69)	△ 69 (△ 50)	0 (0)	△ 17 (△ 5)	△ 23 (△ 75)	△ 11 (△ 75)	△ 53 (△ 34)	△ 61 (△ 32)	△ 5 (17)	△ 17 (5)
採算	△ 47 (△ 57)	△ 47 (△ 57)	△ 19 (△ 19)	△ 25 (△ 22)	△ 22 (△ 34)	△ 22 (△ 34)	△ 42 (△ 30)	△ 46 (△ 38)	△ 49 (△ 52)	△ 49 (△ 37)
資金繰り	△ 6 (△ 7)	△ 25 (△ 19)	△ 22 (△ 10)	△ 25 (△ 15)	△ 22 (△ 11)	△ 22 (△ 22)	△ 35 (△ 27)	△ 38 (△ 32)	△ 34 (△ 38)	△ 29 (△ 23)
業況	△ 33 (△ 50)	△ 53 (△ 44)	△ 12 (△ 5)	△ 20 (△ 12)	△ 44 (△ 56)	△ 33 (△ 33)	△ 36 (△ 42)	△ 40 (△ 42)	△ 29 (△ 37)	△ 38 (△ 33)
経営上の当面する問題点 1位	材料価格の上昇		原材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞	
経営上の当面する問題点 2位	請負単価の低下		需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
経営上の当面する問題点 3位	官公需要の停滞		従業員の確保難		大企業の進出による競争の激化		消費者ニーズの変化への対応		新規参入企業の増加	
業種別コメント	原材料費の高騰が続いてはいるが、売上高が19ポイント、業況が17ポイントと大幅に改善がみられ、全項目でプラスとなった。来期の見通しは民間・官公需要の停滞が予想されることから売上が19ポイント、採算10もポイントマイナスとなった。また、ウクライナ危機がもたらす影響もマイナス要因となっている。		前期に引き続き、資源・資材価格の高騰が影響し、資金繰りは12ポイント、業況が7ポイントマイナスとなっている。また、需要の停滞に加え、急激な円安による原材料価格や電気料金の上昇が採算悪化を引き起こし、来期は全項目でマイナスの結果となった。		売上は52ポイントと大幅な改善が見られたが、原材料の調達難や急激な為替変動による仕入価格高騰が続くなか採算では8ポイント、資金繰りは11ポイントマイナスとなった。来期の見通しについても仕入価格の上昇が続くことが予想されているが、年末に向けた需要が期待されることから売上高についてはプラスとなっている。		物価上昇に伴う急激な個人消費の落ち込みにより、売上高19ポイント、採算12ポイント、資金繰り8ポイントマイナスとなった。10月の値上げラッシュや消費マインドの冷え込みから、売上高は29ポイントマイナスとなるなど今後も厳しい状況が続く見込みである。		新型コロナウイルスによる自粛ムードは落ち着きを見せてきたが、客足は完全に戻っていない状況。採算、資金繰り、業況は若干回復したものの、売上高は22ポインのトマイナスとなっている。今後も原材料費や物流コストの高騰が懸念されるが、年末の忘年会シーズンを前に、顧客満足度を下げない企業努力が求められる。	



とくに好調 (50≦DI)　好調 (25≦DI<50)　まあまあ (0≦DI<25)　不振 (△25≦DI<0)　きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※(　)は前回調査時のD･I値

※詳細につきましては、加茂商工会議所ホームページ(http://www.kamocci.or.jp)をご覧ください。

